

琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(平成27年度(2015年度)第3四半期)

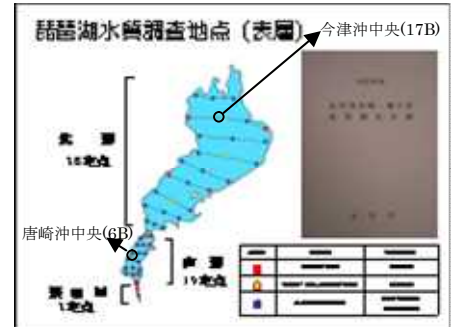
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第16条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における平成27年度第3四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖28地点、南湖19地点の年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

◎調査方法について

北湖28地点、南湖19地点、瀬田川2地点の計49地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約90m地点今津沖中央(通称「17B」)、他1地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B」)において、月2回実施しています。



◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成27年度第3四半期の水質概況は次のとおりです。

○今津沖中央(17B) 調査結果

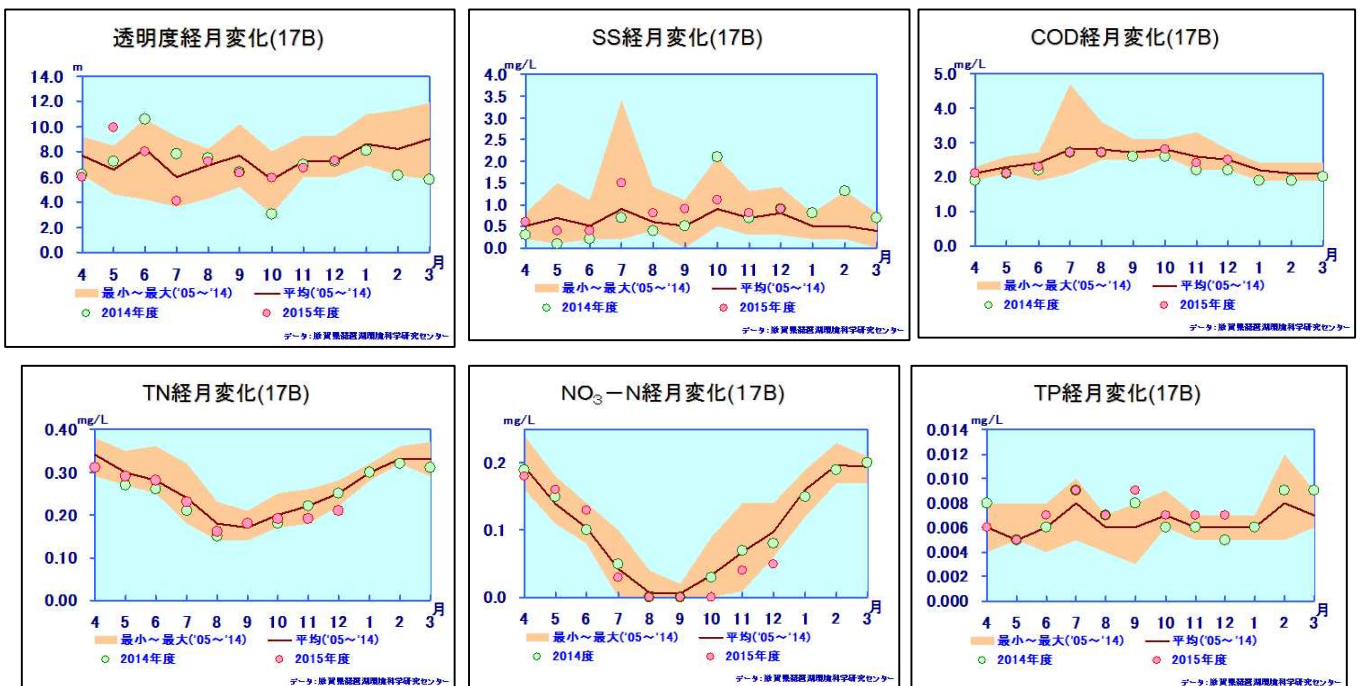
透明度については、10,11,12月とも過年度(過去10年間)平均値並みの値でした。

透明度に関連する項目である浮遊物質量(SS)についても、透明度と同様過年度平均値並みの値でした。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、過年度平均値並みの値で推移しました。

全窒素(TN)は、10月は過年度平均値並みの値でしたが、11月は過年度平均値よりも少し低く、12月は過年度最低値(0.22 mg/L)よりも低く(0.21 mg/L)になりました。

全窒素の形態の一つである硝酸態窒素(NO₃-N)は10月まで枯渇した状態が続き、11月に回復してきましたが、12月は過年度最低値(0.06 mg/L)よりも低く(0.05 mg/L)になりました。また、全りん(TP)は10月は過年度平均値並みの値でした。11、12月は過年度最高値と同値(0.007 mg/L)でしたが、過年度平均値(0.006 mg/L)とほぼ変わらない値でした。



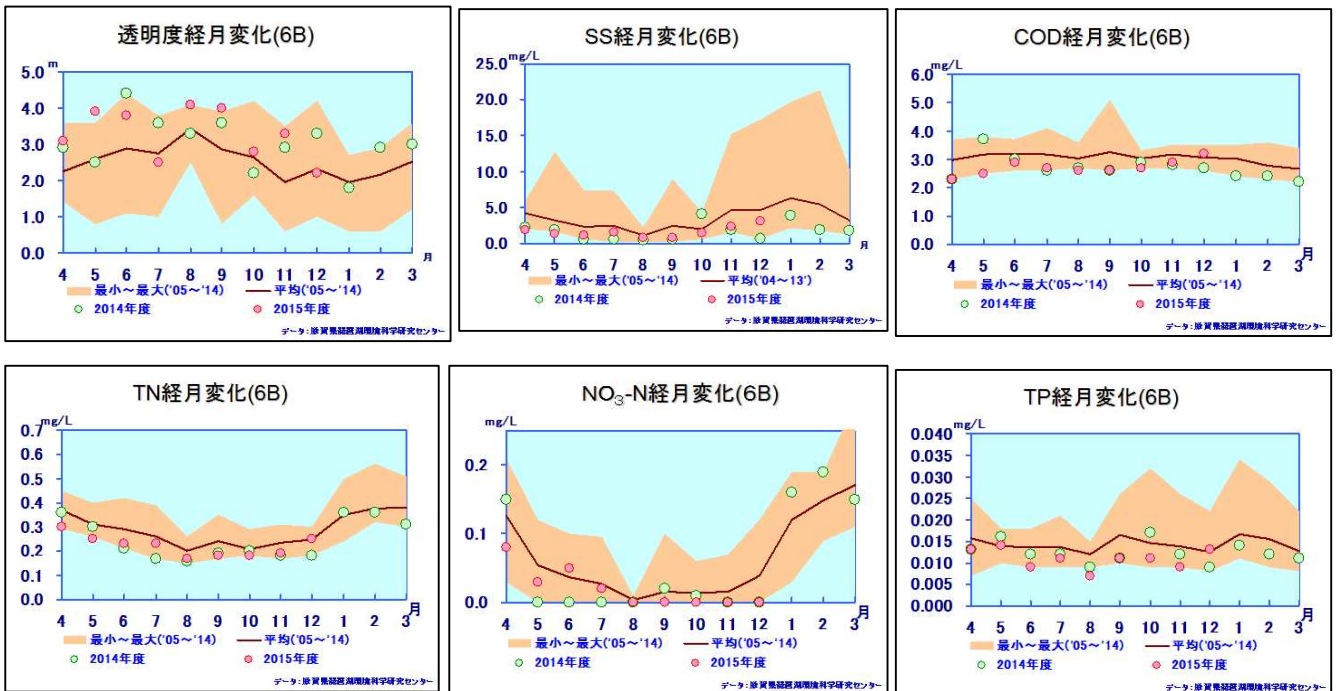
○唐崎沖中央(6B)調査結果

透明度については、10月は過年度平均値並みの値でしたが、11月は過年度平均値よりもやや高くなりました。12月は過年度平均値並みの値となりました。

SSは10、11、12月とも過年度平均値よりも低い値となりました。

CODについては、10月は過年度最低値と同値である2.7 mg/Lとなりました。11、12月はほぼ過年度平均値並みの値となりました。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、10、11月は過年度平均値よりも低くなりましたが、12月は過年度平均値並みの値となりました。硝酸態窒素(NO₃-N)は10、11、12月とも定量下限値(0.01)未満であり、8月から枯渇した状態が継続しています。全りん(TP)は、10、11月は過年度平均値よりもやや低くなりましたが、12月は過年度平均値並みの値でした。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター

環境監視部門 公共用水域担当

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: de51400@pref.shiga.lg.jp